

第46回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

平成29年8月23日開催

第46回 新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

・日 時 平成29年8月23日（水）19：00～20：30

・場 所 植苗ファミリーセンター

・議 題

- （1）住宅防音対策の進捗状況等について
 - （2）地域振興対策の進捗状況等について
 - （3）新千歳空港周辺地域振興基金について
 - （4）平成28年度航空機騒音測定結果について
 - （5）新千歳空港における最近の動向について
 - （6）その他
-

◎地域委員 出席者（14名）

◎北海道（9名）

◎公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎苫小牧市（7名）

1 開 会

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） お晩でございます。定刻となりましたので、ただ今から、第 46 回「新千歳空港 24 時間運用に関する苫小牧市地域協議会」を開催いたします。

2 あいさつ

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、会議に先立ちまして、北海道の交通企画監からご挨拶を申し上げます。

● 北海道（交通企画監） どうぞよろしくお願い申し上げます。

協議会の委員の皆様方におかれましては、お盆明けの大変忙しい時期、また、一日の仕事を終えられて、大変お疲れのところ、この協議会のほうにご出席を賜りまして心から感謝を申し上げたいと思います。

新千歳空港の 24 時間運用の件につきましても、日頃より地域の皆様方のご協力のもとにですね、これまでなんとかやってきたということで、ご協力を賜りまして、また併せて御礼を申し上げたいと思ってございます。

一昨年 3 月に皆様方から合意をいただきました深夜・早朝時間帯の発着枠の拡大でございます。昨年の夏ダイヤから本格的な運用が開始をされているというところでございますが、今年の夏ダイヤでは、30 枠の半数を超えて、16 枠の活用がなされるということでございます。順調に、おかげさまをもちまして、利用されている状況でございます。国際線の臨時・チャーター便の利用も含めて、今後とも有効に利用されるという見通しでございます。本当にありがとうございます。あらためて御礼を申し上げたいと思ってございます。

新千歳空港につきましては、皆様方もご承知のとおり、利用者数が昨年度平成 28 年度は、2,100 万人を超えたという状況でございます。このうち、国際線の利用者数が、270 万人を超えるといった状況にございまして、依然として増加傾向にあるという状況でございます。こうした中、皆様方のご協力によりまして運用されております 24 時間運用でございますが、その重要性や注目度が益々大きくなってきているということでございます。

今後とも、北海道観光の進展に伴います、北海道経済の活性化において、大きな役割を果たす見込みでございます。皆様方のご協力がですね、本道経済・観光を支えていると言っても過言でもないというふうに理解をしているところでございます。本当にありがとうございます。

一方で、地域の皆様方の安全・安心な生活環境の確保ですとか、あるいは地域の振興・発展のため、皆様とお約束をさせていただきました住宅防音対策、地域振興対策につきましては、現在、苫小牧市、財団と連携をしながら計画的、本格的な運用に向けて様々な課題を把握しながら、現在取り進めをしているところでございます。

本日につきましては、住宅防音対策及び地域振興対策について、現在までの進捗状況について、説明をさせていただくと。また、今後の事業の進め方などについてご報告をさせていただくということでございます。

財団で管理・運用してございます新千歳空港周辺地域振興基金の状況ですとか、あるいは平成 28 年度の航空機騒音の測定結果などにつきましてもですね、併せてご報告させていただきたいと

考えているところでございます。

また、新聞報道等で皆様方もお聞きおよびになっているかと思えますけれども、現在、新千歳空港を含めた道内7空港の民間委託につきまして、平成32年度からの民間委託を目指しまして、現在、様々な手続きが国との間で進められてございます。

その概要についても本日ご説明をさせていただきたいと思っておりますので、皆様方におかれましては、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと考えているところでございます。

いろいろと皆様方のお話をよく伺いながら、今後ともできる限り、私どもとして努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞ本日は、よろしくお願ひしたいと思ひます。

簡単ではございますけれども、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苫小牧市副市長からご挨拶を申し上げます。

● 苫小牧市（副市長） 皆さん、こんばんは。

今日もお忙しい中を、このようにご出席をいただきまして本当にありがとうございます。

新千歳空港における深夜・早朝時間帯の発着枠拡大、これはただいま北海道の交通企画監からもお話がございましたように、皆様のご協力によりまして27年3月合意をいただいたと、その後運航が開始されているところでございます。

この合意に伴いまして、皆様とお約束をさせていただいております住宅防音対策と地域振興対策につきまして、本市といたしましても、事業を一生懸命進めているところでございまして、これからも皆様方のご意見を伺いながら、スピード感を持って着実に進めてまいりたいというふうを考えているところでございます。

今後とも、この新千歳空港につきまして、皆様方のご協力やご理解をお願ひをいたしまして、簡単ではございますけれどもご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願ひいたします。

3 議 題

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、議題に入らせていただきます。

（1）の住宅防音対策の進捗状況等についてを議題といたします。北海道から説明いたします。

● 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） よろしくお願ひいたします。住宅防音対策の進捗状況等についてご説明させていただきます。

資料を1枚めぐりまして、1ページの資料1をご覧くださいと思います。

最初に、「平成28年度の実績等について」でございしますが、「（1）実施方針」として、昨年は、平成28年度工事希望者を評点基準により順位付けし、そのうちの上位の方を対象に現地調査を行い、基準に該当する住宅に防音工事ができる旨を通知させていただいたところでございます。

「（2）平成28年度の実績について」でございしますが、助成申込・内定件数につきましては、一般住宅が36件、集合住宅が1件、合計37件、工事实績件数が、一般住宅のみで11件、翌年度に工事することになりました件数が、一般住宅で25件、集合住宅で1件、合計で26件ということになっております。

次に、「2 平成29年度の進捗状況等について」であります、「（1）実施方針」としまし

て、最初に、平成 28 年度に現地調査を実施し、「防音工事助成申込書」が提出された住宅の工事の完了を最優先とさせていただいたところです。

また、平成 28 年度に工事を希望されていましたが、優先順位が低く現地調査を実施していない住宅及び平成 29 年度の工事を希望された住宅につきましては、選定方法を見直し、より工事ニーズの高い方を優先して実施することとしたところでございます。

「(2)平成 29 年度の進捗状況(予定)」でございますが、今年度につきましては、当初予算において約 7 億円の予算を確保したところでございますが、改修部屋数が多い住宅からの申請が集中し、着工できる件数が、当初の想定より減少することが見込まれたため、7 月に新たに約 2 億円の補正予算を措置したところでございます。

この結果、今年度の住宅防音工事につきましては、当初予算で対応するものとして、一般住宅が 14 件、集合住宅が 1 件の合計 15 件、補正予算で対応するものが、一般住宅のみで 2 件、合計で一般住宅が 16 件、集合住宅が 1 件の 17 件という形になりまして、翌年度に工事することになった件数は、9 件という形になっております。

続きまして、「3 来年度以降の対応について」でございますが、昨年、苫小牧市地域におきましては、合計 37 件の住宅等の工事が可能であったにも関わらず、それらの方が、必ずしも昨年度中での工事にはこだわっておらず、冬場の工事を敬遠するといった理由が原因で、実際に工事を着手されたのは 11 件のみということで、当初の私どもの予想を大幅に下回りましたことから、今後につきましては、それぞれの方の希望される工事内容あるいは工事の実施時期についてしっかりと把握し、設計・施工業者とも調整した上で、皆様のご希望する時期にきちんと工事ができるように事業サイクルを確立したいというふうに考えております。

このため、「(1)工事に係るニーズの把握」といたしまして、現地調査の実施にあたりましては、設計・施工業者立会のもとで財団から工事内容等を説明し、希望する工事内容や時期に係るニーズを確認することとしております。

また、「(2)設計業務の前倒しについて」でございますが、工事の実施にあたりましては、希望する工事年度の前年度までに設計業務を完了させ、希望する時期に速やかに着工できるよう、事前の準備を進めることとしたいというふうに考えております。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明については、以上でございます。

●苫小牧市(まちづくり推進室長) それではただ今の説明につきまして、ご意見ご質問をお受けしたいと思っております。いかがでございますか。

●A委員 今説明にありました来年度以降の対応なのですが、それぞれに工事内容や時期に係るニーズを確認しますということですが、これはまだ工事やられていない対象、全戸についてあたるということなののでしょうか。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) 今後につきましては、当初、27 年度にやりました意向調査でご回答いただいた方を中心に、まず優先順位に基づいて現地調査をさせていただきまして、今説明したような形で意向のニーズ等を把握していくこととしております。

その後、また随時追加等もさせていただきますので、追加いただいた方には、その順番に応じて現地調査のほうを実施してまいりたいというふうに考えております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に（２）地域振興対策の進捗状況等についてを議題といたします。北海道から説明をいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、地域振興対策の進捗状況等についてご説明させていただきます。

１ ページめくりまして資料２をご覧くださいと思います。

まず、植苗地区の「道営住宅の整備」についてでございますが、植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備するというところで、平成 31 年度中の入居開始に向け、取組を進めているところでございます。

進捗状況でございますが、平成 28 年度については、地権者と交渉を行ったほか、建設予定地に係る支障物件調査を進めたところでございます。平成 29 年度以降についてでございますが、今年度については、7 月から来年の 2 月までの予定で「地盤調査」を行い、住宅を建築する際に必要な地盤の状況を把握したいと考えております。

また、同時期に造成工事など、建物本体以外の工事に係る「外構実測・実施設計」を行う予定でございます。さらに、8 月下旬から来年 3 月にかけて「基本設計・実施設計」を行いまして、道営住宅の全体計画に係る基本設計のほか、第一期目となります 8 戸の整備に係る本体工事の実施設計を行う予定でございます。

平成 30 年度につきましては、「造成工事」を行った後、「本体工事」に着手する予定としておりまして、できる限り早期の完成を目指して取り組んでまいりたいと考えてございます。

続きまして、「道の駅関連施設の整備」でございますが、道の駅関連施設につきましては、道の駅「ウトナイ湖」の施設周辺に、ウトナイ湖を望む展望台を整備するものでございます。

平成 28 年度につきましては、施設のあり方などにつきまして、苦小牧市と住民の皆様で協議したところでございます。今年度につきましては、その内容をもとに、基本設計・実施設計を実施することとしておりまして、平成 30 年度には、本体工事に着手する予定となっております。その概要につきましては 3 ページに別添 1 ということで、資料のほうを添付させていただいております。後ほどご覧いただければと思います。

それでは 2 ページにお戻りいただきまして、続きまして、「冷暖房機器等の設置」についてでございますが、こちらにつきましては、先ほど説明いたしました住宅防音工事とセットで実施することを基本としておりまして、平成 28 年度につきましては 4 件実施、今年度につきましては 12 件の実施を予定しております。

続いて「住宅建設が可能となる区域拡大の検討」でございますが、道営住宅の整備予定地である星ヶ丘団地につきましては、苦小牧市におきまして、平成 28 年 11 月に地区計画の決定告示を行い、住宅の建築が現在可能となっているところでございます。

続きまして、沼ノ端地区の「複合施設の整備」についてでございますが、苦小牧市東部地域の拠点施設として、大型児童センター、市役所出張所及び集会室の機能を兼ね備えた複合施設を、沼ノ端スケートセンターの西隣の市有地に整備するものでございます。

平成 28 年度につきましては、調査・設計業務を実施しており、平成 29 年 6 月に完了したとこ

ろでございます。今年度におきましては、30年度の供用開始を目指し、秋頃から本体工事に着手する予定となっております。

なお、概要につきましては、4ページから6ページに添付しております別添の2-1、2-2、2-3と資料を添付させていただいておりますので、こちらも後ほどご覧いただければと思います。

また、2ページにお戻りいただきまして、続いて「文化交流施設の整備」についてでございますが、沼ノ端地区鉄南地域に、新たな文化情報を発信する拠点施設として、仮称ではございますが文化交流サロンを整備するものでございます。

平成28年度は施設のあり方などについて、苫小牧市と住民の皆様とで協議をしているところでございまして、29年度以降につきましても、継続して検討を進めていただき、施設のあり方が決まり次第、基本・実施設計等に着手することとしております。

最後に、勇払地区の「総合福祉会館の改修」についてでございますが、これは、老朽化している勇払総合福祉会館について改修を行うものでございます。

平成28年度は施設のあり方などについて、市と住民の皆様とで協議をしたところでございまして、今年度については、その内容をもとに本体工事に着手しており、年度内の完成を予定しているところでございます。

地域振興対策の進捗状況等についての説明は、以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それではただ今の説明につきまして、ご意見ご質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

●B委員 あまりにもこの計画書を見ますと、のんびりし過ぎて、道庁さん頼むときは随分一生懸命頼んで千歳よりも半年も早く30卒通して差上げたのに、今まで何をやっていたのこれ。我々は平成6年に3便6発着決めたときには2年半で出来たのです。

この問題は平成27年の3月19日付けで高橋知事さんの3期12年の中で、どうしてもうちのC委員の連合町内会であり、調印式に何とか高橋知事さんの任期内で間に合わせてあげたくて、私は身いっぱい汗かいて、苫小牧市の担当職員の方々も、私は昔人だから大安の日に実行して下さいよと申し上げて、それも23日と言ってきたから、知事さんが4期出馬するのにきっと告示が24日のはずだから、そんな意地悪するのと言って19日に持っていったのも記憶に新しくしております。

それなのになんなのこれ。知事さんが居なくなってから供用開始になるの。31年ならなるよこれ。私は31年の4月に全部子どもたちにもこの住宅に入れてもらうように一生懸命話はしたし、用地も早くから確保しておいてあげたし、まだ用地の契約もしていないってどんなことなの。その返事下さい。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 道営住宅の建設スケジュールについてでございますが、前々からB委員から早くに進めてもらいたいというお話をいただいております、こういった地域の皆様からのご要望を踏まえまして、工期の短縮、前倒し等について検討させていただきまして、今回こういった、当方としては可能な限りスケジュールを詰めた形としてお示しをさせていただきます。

また、今回の建設予定地についてでございますが、今現在、現況が原野ということでございま

して、他の事業と比較しまして新たに造成工事が必要となるという要因があるほか、あそこの地盤について他の施設の整備状況等をみますと、地盤のほうが比較的弱い、あるいは水がちょっと多い、水が出てくるといったお話なども伺っております。そういったことから、建設後に地盤沈下等そういった不具合が生じないように慎重に取り進めていく必要があるのかなというふうにも考えております。

道といたしましては、道営住宅にお住まいになられる子育て世帯の皆様への安全・安心を確保するという観点から、丁寧に用地整備を進めてまいりたいと、一方で地域からこのようなご要望があるということですので、できる限りの早期の完成に努めていきたいということで、このようなスケジュールとさせていただいたところでございます。

●B委員 その説明はわかりますけれども、あまりにも遅くないですか。2年半たったのですよ。その説明は何もないでしょう。高橋知事さんのいらっしゃる間に、やっぱり道営住宅にこうして入らせてもらったというお礼くらいは、この地域としてしなきゃならんくらいのことには心しています。これ間に合わないでしょう。高橋知事さんが5期しないと3月いっぱい役職から離れますよ。だけど、3月いっぱいに入れないでしょ、入れるの。その説明を何も今しないでしょ。そんな卑怯な説明あるかい。

それでは道庁さんには、あれだけ30枠、本当は20枠で平成21年から平成25年の10月の半ばまで20枠でいっていました。それを、今度急に30枠になって、その30枠も、私も昔は大東亜戦争に1年6ヶ月身を挺した人間ですから、止むを得ないなと思って、何にも言わないで騒音直下の植苗南町内会の人方、一致協力して差上げて調印式を3月の19日にここの場所で実行して差上げた。前は、6枠のときには、苫小牧のニュー王子の古いほうでやりましたけれども、せっかくこれだけの建物を造ってもらったんだからということで、苫小牧の担当の方にも申し上げてここでやらせてもらった。

このスピード感ここにありますか。そして、今日これ名刺いただいた道庁の責任者の方も、前の方は随分色々な面で、副知事なんかはうちに4回も来てくれていますよ。来たから良いとか悪いではない。やはり仕事は顔をあわせないと。だからこんなに遅れちゃったんだ。その責任を取って欲しいな。取れないかもしれない。だけど、出来ないよこれ、出来るの。やり方はなんぼでもあるよ。だけど、一つ一つ出来上がらなかつたらだめだとか、そんなことを言っていたら、本当に大変な時間ばかり費やす。

今年中に用地に前金をいれて契約をして、そして、この結果で契約も何もできるはずだから、年内に契約までして欲しい、用地の。だけど、来年になって契約したは、高いとか安いとかと言っていたら1年掛かるよ用地獲得に。そんなのろまのことやったらその次の年に本体工事、入札だなんていったら、入札も設計も全部今年から出せばいいんだ。やれるのだから。決まったものだから。そういうスピード感を約束してもらえないと私はマイク置かないよ。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 用地の関係についてでございますが、先ほどご説明させていただいたとおり、昨年度に地権者さんと交渉させていただきまして、昨年の時点で土地の購入についてのご内諾についてはいただいているところでございます。その後、先ほどご説明しましたとおり、全体の計画である基本設計、それと実施設計、ここを進めながら用地の確定測

量を今年度に実施していくということで、その測量が確定した時点で正式な土地の購入という手続きに入りますことから、今のところでは取得時期としては年明けを考えているところでございます。

●B委員 それが甘いって。用地は必ず坪当たりの単価が高いとか安いとかになって、やっている間にもう半年くらいすぐ経ちますよ。了解すると言ったって決めて手金でもなんでも入っていないものは決まったうちに入っていない。不動産の取引随分わかってない。課長その責任は本当に取れるかい、俺は取れないと思う。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今、地権者の交渉について、私のほうで担当させていただいております、地権者の方との関係性としては今のところ良好ではございますが、ご懸念している部分も当然あるかと思っておりますので、そういった不都合が生じないようにきちんと取り進めてまいりたいと考えております。

●B委員 そうであれば、30年中に全部住宅建てて下さい。8戸分。そうであれば4月から入れることは出来ます。それを約束してください。そうでないと俺はマイク置かないよ。そこまでちゃんと責任が取れるのであれば。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 私の方からお答えさせていただきたいと思っております。

日頃からB委員とのお話をお伺いしている中で、地域に対する地域振興、人口減少対応も含めて、植苗小中学校の存続を含めた長期的なお考えというのは、十分私も重たく受け止めておるところでございます。

工期の完成の時期、本体工事の時期でございますけれども、先ほどもご説明しましたが、用地の地盤の関係、そういう部分についてしっかりと調査を進めていかなきゃならないなというふうに考えてございまして、その部分の関係部局とも十分検討しながら、今、最大限出来る日程を皆様にご説明している状況でございます。

やはり、道営住宅に住まれる方が安全・安心、生活環境を将来に渡って確保していかなきゃならないという部分はあるかと私は考えてございまして、やはり、今、取り掛かっている各種の調査をしっかりと行った上で、その調査結果を踏まえて、できる限り早く完成できるような取組を進めてまいりたいと思っております。

●B委員 取っ掛かりが遅すぎるんだって。何をやってたのさ今まで。人に頼むときだけ身いっぱい頼んで。航路直下というのはいつ飛行機が墜落しても、その責任はすごく重いのです。こんな住宅の一つや二つ建てるのと全然違う。それでもあれだけまとめて差し上げたのに、何回も用地のこと言たって動かなかったでしょう。動いたかい。今、動いているでしょ。

だから、この作業だってきれいに切らないから。まだ4か月あるんだから年内に全部やらせて冬中にきちんとやれば。建築を、4月に入札をすれば間に合うと思う。それを全部終わってから、大事に大事にいったって、そんなもの言っている言葉だけで何も決まったものだから設計でも何でもちゃんとできるんだ、この中で。特区だよ特区、特区でやらせているものを平々凡々と何もやらないでしょうこれ。

今日初めてお会いした交通企画監さん、どういう責任取りますか。いつも副知事が来るんだよ。あまりにもでたらめすぎる。

●北海道（交通企画監） 冒頭でも申し上げましたけれども、B委員をはじめ協議会員の皆様方のご協力によって、この24時間運用が進んでいるというふうに理解をさせていただきます。

特にB委員、二十数年もう長期にわたって色々な角度からご心配をいただきながら、大変強い思いをいただいているということかと思えます。そういった強い厚い思いに対して、十分私どものほうで応えきれていないというところについては、本当に申し訳なく思っているところであります。

今回の住宅についても、植苗地区併せて他の地区も含めた発展のためということで、B委員のほうからご提案をいただいたところということで、私どもとしても精一杯早期の実現に向けて、出来るだけの取組はしていかなきゃならないというふうに基本的に考えているというところがございます。

中々、説明をして十分私どもの考え方も、これまでの経過を踏まえるとストーンと落ちてはいただけないというのは私どもとしても理解をしているところではありますけれども、私も先ほど現地を見て、これまでも見せていただいたのですけれども、やはり、地区の状況その他、正直ございます。この辺B委員からのご叱りの中では、着手が遅いということでもお叱りをいただいたところではありますけれども、もう少し今年やっているいろんな調査、安全確保の部分からも少し丁寧にやれば良いなどは思っております。その上で色々なスケジュールも含めて、出来るだけこれからも少し詰めていけるように、これからもおそらくお叱りを頂戴することの連続かと思えますけれども、そういった形で少しでも少しでも委員さん方、皆様方のご希望に寄り添えるように努力してまいりたいと思っております。

十分な回答ではないとは思いますが、出来るだけの努力をさせていただくということでご理解をいただければ本当に幸いです。

●B委員 そんな問題でないんだ。というのは、植苗の小中学校が全教科が複式になってしまって、それを解消するために3LDKにして下さいということをお願いをして、1日も早く人が入れる入れ物がないと生徒を連れてこれない。そのことを何も認識していないでしょう。だから、通りいっぺんのことを言わないで、この地域、今度、飛行場に関係して滑走路延長になんていったら、全然ぴくりとも動かないよ。あんたらの責任でなるよ、全部。あれだけ急がせて2年半ほっといたのだから。2年半経ったんだよ、違うかい。そして、高橋知事の任期中に必ずやって下さいって記録に残っているよ。知らないかい。記録に残っているのに知事が居なくなってから完成するなんて、そんなやり方、道庁の職員って嘘つきになっちゃうよ。皆さんから意見聞いてください、私の言う事がきついか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の意見について委員の皆様から何かご意見などございますでしょうか。

●A委員 今、学校の話が出ましたけれども、複式になっているのは事実なのです。それが早く解消して欲しいということをお願いしているのですけれども、クラスが小学1年生から小学6年生まで、もう卒業してしまったのです。その生徒はずっと複式で6年間勉強したと。複式になったときに、まちかどミーティングで市のほうに話したときには、複式になってもカリキュラムの工夫によってそんなに学力は落ちないのだというような説明はあったのですけれども、私も学校

の評議委員をやっているのですけれど、学校に行き行って聞いたら、先生も大変だしやはり学力は落ちるというのですよね。誰が考えてもそうですよね。それがまだ続いていくのですよ。これから。だから早くやって下さいと一刻も早くお願いしますというのが、本当に私たちも学校の今授業を受けている生徒に申し訳ないなと思っているところです。そういう気持ちでお願いしています。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 他にご意見などございますでしょうか。

●D委員 我々が30枠を何年もやって最初この拡大枠というのは、B委員も言いましたけれども二転三転しました。羽田の4本目の滑走路までに拡大枠をするということで突然やめたのも北海道庁さんです。その時でさえ、この地域は北海道のやる政策というのはどういう考えなのかなという不信感がありました。

だから、今回は枠数と防音工事と振興策と一緒にやって欲しいということをお願いしました。ご挨拶のなかで皆さんスピード感を持ってやっているといいますけど、これは課長さんに聞いたほうがいいのか、整備スケジュールをきちんと出して見て下さい。これは1期でこういうふうが遅れているのであれば、4期でやるんですか32戸。当初は何年ですか、やろうとしていたのは。それも、遅れてやろうとしているのではないですか。

だから、地質の調査、そういうのは、これは何処でも道営住宅建てるなら当たり前の原理原則ですよ。それでまだ地権者の契約にも至っていない。これはもうスタートラインにまだ立っていないのが現状ですよね。だから細かい整備スケジュールをきちんと出さないと我々だって納得しなすよ。なんぼそちらの地盤が悪いだとかなんだかんだ言われて、そんなの北海道中同じ地盤じゃないからそれは当然ですよ。だけど、平屋ですよ、建てる道営住宅、聞いている中では。

だから、どれくらい時間をかけてやろうとしているのか。今、色々な学校の問題も言いましたけど、約束があまりにも違いますよ、契約した時の。その時ここにいらっしやったのは課長さんくらいしかいないのかもしれないけれど、それはあんまりですよ。地域を少し誤魔化すつもりでいるのかどうか分かりませんが、こういう言葉を使って良いかどうか。あんまりです。何期に出来るなんて問題の話でない、やることやらないのは約束違反だ。口答でも言ったことを守らない役人というのは約束違反ですよ。いつ契約するかもまだわからない、何月何日にやるかもわからない、何月何日に設計もやるかもわからない、こんないい加減な資料を提出したって、これは納得しないよ、本当に。納得できないですよ地域は。そんな約束で振興策を合意した訳ではないのですよ。これだって戸数もちゃんと何回も打ち合わせで決めた話なのですよ。多分僕の記憶では4期工事でやろうということを知っていました。だけど最後のリミットはいつ出来るのかもこれもわからない状況ですね、1期目がこういう状況だから。

4期までいくのに何年かけようとしているのですか。そこらへんも全部きちんとした整備計画を出して貰わなかったら、こんなアバウトな計画書で皆さんを納得、これは植苗地区の振興策だから他の地区には関係ないかもしれないけども、それはあんまりですよ。今までもこういうことを、何回も北海道の皆さんは繰り返しているから、北海道に僕は個人的にもう信用がないのだよ。でも、会議で決めたことくらいちゃんとやってもらいたいというのが現状なのですよ。今16枠だか飛んできたってそれは結構です。ですけどこっこの地域振興策も遅れに遅れてそんな言いぐさはないと僕は思いますよ。これではやはり地域の人には納得しません。何回も会議に来て、最

初から 6 枠の倍の 12、それから二十なんぼ、沢山提案されたけど、そちらの言う最終的には 30 枠に合意したのですよ。でも、振興策もちゃんとやれないというのは全然違ってきますよ。

やはり決めたことをきちんと守ってやって貰わなければ、今後もこういう北海道さんの提案に協力できる事はこの地域ではないのかなという感じで聞いていたのですよ。答えは、今日は言うつもりもなかったのですけれど、あまりにも返答の答えが具体性のない、ただの答えでは地域は納得しません。

だから、細かいスケジュールを全部出していただいて、今日は報告だからこれで良いかという問題ではないですよ。去年のときの協議会でだって出せたはずだ。それも出さなかった。だから、まだ今は 8 月ですから、やる気になれば出せると思うのですけれど、でも、予算も何も組まなければ出来ないとします。そんな感じで私はもう最初から立ち合わせてもらったけど、これは最初の言った事と全く違ってきますよ。だから、担当の方がゴロっと変わっちゃったからそんな知らないよと言われればあれですけど、それはないと思いますよ。それで 30 枠のことだけ強調されても、地域は納得しないです、植苗の人方は。細かいきちんとした整備計画を出してもらわなければ、今後この地域の人たちは協力できないと思います。これは、脅かしでも何でもありません。今までも何回もこのテーブルについてきて、こういう枠数のことを委員の皆さんが時間を割いて協力したのです。これは勇払、沼ノ端の方もそうですけれど、それに対して振興策が遅れました、これは地盤が悪いです、そういうことは全然今の技術で関係ありません、我々にとって。やることはちゃんとやって貰いたいのです。

今できなければきちんとした書面で、整備計画を出していただかなければ地域は納得しないと思います。だから、今年度中にでも出していただくか、早急に何か月後にでも出してもらわなければ納得できないと思います。以上です。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） まず先に意見のある方、先に言っていただきたいと思いません。他にございますでしょうか。

●C 委員 交通企画監の最初の挨拶で、できるだけ地域の意見を聞きながら進めていきたいと、こうやって言われていましたが、それで今スケジュール云々言うのですが。実は私も平成 27 年の 12 月 10 日に植苗の連合会、役員会において、3 月の合意、この 27 年ですから資料にありますけれど、19 日に合意した、その後どういう進め方になるかということで役員会に道庁に来ていただいて、役員会でお話いただきました。そのときの文書もございます。そのときのスケジュールもありますここに。であります、段々年とってきますと記憶も薄れてきますし、中々理解もしていない時もあったと思います。

そういう中で、早くやっていただきたいという希望に対してのあなた方のお言葉は出来るだけ早くやりたい、そういう返答が多かったように私は思います。それで、非常に期待が大きいのです。そういうことで、やって貰えるのではないかというような、早期に、そういう期待というのが非常に大きかったということでございます。

そういうことで、企画監は初めてこういうことを聞かれるかも知りませんが、もう少し親身にやっていなかったなと私は思います。届いたかどうか分かりませんが、だから、この間まで副知事が何回も来てお願しますと言って、もうそれが終わったらピタッと誰も来なくな

ったということのような感じです。それは、やはり協力した地域としては冷たく感じると思います。それと、出来るだけ早くという言葉に対して、期待も大きかったのだと思います。それが何年も続いてしまったということですから。やはり人間同士というのは、情というのは非常に大事なのです。特に住民と立ち会う場合においては、それが二十数年、四半世紀ずっと続いているのです。だから、そういう気持ちを全く契約してしまったから良いじゃないかというところが、あまりにも薄情だというふうに捉えられているのです。そのうち人も変わりますし、ですから行き違いというのがこうやって出てくるのです。文書はちゃんとあります。それからいくと今のあなた方の言っていることとそう変わってはいないのです。ですからしっかりと誠意を持ってこれなんだということで強くお願いしてくるべきだったと思います。私たちとしては早いのに越したことはないのです。そうでしょう、今皆さん言っているように。そういうことなのです。企画監から言葉が欲しいな。

●B委員 私からお願いしたいのは、副知事さんは何回も来ているのに、終ってしまって後始末には副知事が来ないというのはどうなんだい。どなたか3人いるうちの副知事、一度植苗の連合町内に顔を出して欲しい。それを要求します。以上です。

●北海道（交通企画監） 今改めて、B委員、C委員含めて強い厳しいお話をいただきました。この場ですぐお答えできるところも、少しお時間をいただくこともあるかと思います。

とりわけ、今副知事が替わって、我々と同じ情報を共有しながら空港に係ること、民間委託も含めてやっているところでもありますけれども、また、改めて皆様方のところにも来られるように調整も少ししながら、一つずつ今日いただいた言葉を受け止めながら、今後とも進めていければ良いと思っておりますので、これからもご指導いただければと思っております。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 私からも大変スピード感がないというご指摘、何度か私はお目にかかっているので非常に重く受け止めておるところでございます。

先ほど、D委員からの具体的なスケジュールも何も見せないでなんなんだというお話がございました。これは本当にそのとおりでなというふうに思っております。

今回の基本・実施設計これから取り掛かります。8月下旬に契約を結びますので、その実施設計が終われば、先ほどご要望のあった整備計画というものをお示し出来ることとなると思いますので、そこらへんをお示しする機会をつくりますので、是非よろしくお願いたしたいと思っております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の件につきまして、今、局長からもございましたように、今後また色々な協議の場を設けて具体的な話を進めていく。

●B委員 もう一回確認させて。このスケジュール通りであれば、供用開始は31年の12月までに仕上げるということですか、住宅を。そうすると、高橋知事さんはもういらっしゃらないのだよ。

●C委員 5期目がやるかもしれないよ。

●B委員 5期やると言えば別だけれども。本当は知事さんの任期中にということ記録に残していますよ。平成28年かな。

●C委員 ここにね、前局長が知事の任期中に着手してまいりたいと考えております、と答弁し

ているからね。B委員は高橋知事さんの4年のうちに全部仕上げていただくそんなスケジュールでやって欲しいと、是非約束していただけることをお願い申し上げますと言っている。それに対しては知事の任期中に着手してまいりたいというふうにと。B委員の言っていることは間違いない。

●B委員 着手だから出来上がらなくても良いと思ってやっているのかもしれないけど、私はそうではなく、前から4月から入れるようにということを随分言っていますよ。担当の皆さんに。それはさっぱり応えていないかな。

だから、先ほど言ったように我々をあまりこげにしたら、今後飛行場で何をやりたくても役所がなんぼやると言っても地域が反対したらできませんよ。それを良いことに千歳は我々より遅れてばかりいるでしょう。

だから、出来れば4月から供用開始が出来るように約束して欲しくて今マイクを取りました。それは出来ないの。31年の4月には全部住宅に入れるように。30年に1年半もあるのだから出来ないことないんだよ。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） これまでのご説明の繰り返しになりますけれども、今の整備計画、具体性がはっきりわからないというご指摘ありますけれども、来年度の30年度中に本体工事には必ず着手するというは何かやりたいと思いますけれども、竣工の時期については現段階でははっきりと申し上げることは出来ません。

●B委員 1年遅れるの？

●北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 31年度中の早い時期に竣工出来るように努力してまいりたいと思っております。今現段階です。まだ基本設計、実施設計終わっていない段階でのお答えでございますけれども、先ほど私申上げましたように、基本・実施設計その進捗状況を見ながら、具体的な整備計画というのをお示しできる時期がくるかと思っておりますので、そのときは改めてきちんとご説明にまいりたいと思います。

●B委員 皆さんご存知のようにやはり学校は4月でないといと1年遅れちゃう、そうでしょう。年度を始めにあれでなかったら。頼むときにはやれやれって頼んで後始末非常に悪いよ、それだけは言わせてもらおう。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それではこの件につきましては、また改めて地域と道の協議をさせていただきたいと思っております。道営住宅以外の件について、この地域振興対策の進捗状況等についてご意見ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に（3）の「新千歳空港周辺地域振興基金について」を議題としたいと思います。この件について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは新千歳空港周辺地域振興基金について、ご説明させていただきます。

7ページの資料の3をごらんいただきたいと思っております。最初に、基金の概要についてでございますが、造成目標額30億円に対しまして、平成27年度末現在の造成済額は18億4220万円となっているところでございます。

昨年の協議会でもご説明させていただきましたが、今回の 30 枠合意を契機といたしまして、昨年からは、道内で事業活動をしている企業等、約 50 社に対しまして、新千歳空港の 24 時間運用に係る意義等を説明するなどして、基金造成への協力依頼を行ってきた結果、昨年度は 13 社から合計 7090 万円の寄附の表明をいただき、そのうち 28 年度に寄附を納入いただいた企業が 8 社、6045 万円、平成 28 年度末での造成額は 19 億 265 万円となったところでございます。ご寄附いただきました主な企業については、この表にある一覧のとおりでございます。

次に、基金造成に向けた取組でございますが、道といたしましては、昨年に引き続き、基金の確保に向け、道内で事業を展開する企業に協力をお願いするとともに、経済界等と協議を続けていく所存でございます。

新千歳空港周辺地域振興基金に係る説明については、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、次第の（４）「平成 28 年度航空機騒音測定結果について」を議題といたします。この件について北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、平成 28 年度航空機騒音測定結果について、ご説明させていただきます。

8 ページの資料の 4 をご覧下さい。航空機騒音の測定局につきましては、苦小牧市内におきましては、北海道が設置した 9 局と苦小牧市が設置した 5 局の、計 14 局がでございます。

なお、表の右側には「年間値」とそれと「民航値」の 2 つを記載しております。「年間値」とは、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む、全ての航空機騒音を集計した結果について取りまとめたものでございます。また、「民航値」とは、民航機の騒音だけを識別・分離して測定することができないため、「自衛隊機の離着陸のなかった日」について「民航機のみ航空機騒音を測定した日」というふうにならして集計した結果となっております。

平成 28 年度の測定結果につきましては、28 年度の欄の塗りつぶした部分という形になります。民航 L d e n 値につきましては、平成 27 年度の数値と比較しますと、自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なること、或いは気象状況等によりまして算出値が変化する場合があることから、単純な比較はできませんが、「美沢」をはじめとした、8 局において、前年度の値を上回った一方、2 局において、前年度の値を下回る結果というふうになりましたが、いずれにつきましても、全ての測定局で対策の目安となる環境基準を下回っているところでございます。

平成 28 年度航空機騒音測定結果については以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に（５）「新千歳空港における最近の動向について」を議題といたします。これについて北海道から説明いたします。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） どうぞよろしくお願いいたします。

私からは昨今、新聞等々でご覧になっているかと思えます、道内7空港の一括民間委託、こちらにつきましてご説明をさせていただきたいと思えます。

資料につきましては9ページ資料の5-1でございます。前段、この資料に記述はございませんけれども他県、福岡などでも進んでおります全国的にやっております、この空港民間委託がどういったものなのかといったことにつきまして、概略について触れたいと思えます。

今般、国や地方公共団体等において進められております空港運営の民間委託でございますが、国、また地方管理空港になりますと、都道府県ということになりますけれども、こういったところが滑走路や誘導路等の基本施設の所有権は留保しつつ、所有権は放さず残したまま、民間に運営権といったものを設定し、航空系事業と呼ばれますけれども、滑走路やエプロンや誘導路等をこれらの運営でございます、これを下場のほうで下と言いますが、また空港のターミナルビル等の、こちらは非航空系事業と言いますが、これは上物ということで、上と下ということで一般に上下一体の運営を民間の事業者に委託をしようということをやっているわけでございます。

これによりまして、どういった効果があるのかという事でございますけれども、これまでは国と民間会社がバラバラに滑走路とターミナルビルを運営していたが、今度是一个の民間事業者が滑走路もターミナルも一体的に運営が出来ると、一个の経営体として、経営戦略をもって判断できるというところでございます。もうちょっと具体的に言えば、例えば、空港ビルのほうでお客様が物販だとか飲食等でいろいろお金を使っていただきます。そういった収入を使いまして、今度下場の着陸料をこれはエアラインのほうから使用料としていただくものですが、これを下げることにも出来ると、それを原資に下げることにも出来る。それをやることによって路線を誘致するときにエアラインに対して非常にインセンティブが働くということで、また路線誘致等にも有利に働くという、そういった民間のノウハウによる就航便数や路線の拡大によって更にまたお客さんがいらっしゃる、そしてまた空港ビルを利用していろいろなそこで収入源が上がるということの好循環をどんどん民間のノウハウを使ってやっていこうと、そういったことによって一層の空港活性化が図られるとそういった効果を期待するという取組でございます。

それで本道ではどのようなことをやっているかということにつきましては、ここから資料の5-1に移ってご覧いただければと思えますが、その上段でございます。こちらに道内7空港の一括民間委託のイメージといったものがございます。

道でやっているのは、全国でも前例のない管理者が異なる、ここで言いますと4つの管理者と、そして7つの空港という複数の空港ということを、同一の民間事業者に、全て7空港の運営を任せようという一括民間委託、こういった取組を通じまして道内航空ネットワークの充実強化でありますとか、道内空港の機能強化を図るといったことをしまして、こういった取組を通じた広域観光の振興、また地域経済の活性化に繋げていきたいといったことを目指しております。

その実現に向けました地元意見といたしましては、昨年末、「北海道発の提案」と呼んでおりますけれども、こういったものを取りまとめ、国のほうにも提出、要望いたしたところでございます。

昨年末の国への提案後は、その後の取組といたしまして、本年1月下旬から5月中旬にかけて各空港において順次、民間事業者を対象といたしましたシンポジウムや現地視察会といった

ものを開催いたしております。新千歳空港におきましても、5月の16、17日にこういったことを開催をいたしております。道内空港の運営委託に参入しようということで関心を有する企業等々のご参加の下、地域によってはその空港の後背地、空港施設に加えて観光地でありますとか産業施設等の地域の姿、そういったものを見ていただくとともに、また地元の自治体や空港ビルによりますプレゼンテーション、また意見交換、こういったものを通じまして、民間企業の皆様に地元の考えや要望等に対する理解を深めていただいたといったことも行わせていただいたところでございます。

そして、この資料5の下段のほうをご覧くださいければと思います。これが、民間委託に向けました想定されるプロセスということになってございます。先月になります7月31日には現時点での考えております民間委託の制度概要といたしまして、基本スキーム（案）と言いますけれども、こういったものを公表するとともに、マーケットサウンディング、ちょっと聞きなれない言葉ではございますが、民間投資意向調査と呼ばれます、こちらを開始して、今やっている最中ということでございます。

今後の具体的な制度設計に向けまして、民間事業者から事業実施に係る運営形態や運営権者の選定方法、こういったものについて民間からのご意見をこのマーケットサウンディングを通じて募集をしているということをやっているところでございます。

また、ここに記載はございませんけれども、国と道の方で主催いたします9月9日には、名称といたしまして「HOKKAIDO空港運営戦略フォーラム」といったものを札幌市内で開催を予定しております。国や地元自治体のトップとともに、我々の方としては知事も出席をいたしまして、運営権者の今後の入札に向けまして、より多くの民間事業者にご参加をいただけるよう機運の醸成も図ってまいりたいと、そのようにも考えてございます。

今後は現在実施をいたしておりますマーケットサウンディングでの意見なども踏まえつつ、今年度内に策定、公表を予定しております実施方針、こちらに本道の基本的な考え方として国にも提出をいたしました「北海道発の提案」、この内容を反映させまして、道内7空港の一括民間委託が先ほども申し上げましたとおり、広域観光の振興、地域経済の活性化、こういったものに繋がり、更に本道の持続的な発展に繋がるよう、平成32年度の民間による空港運営の開始、こういったものに向けまして取組を進めてまいりたい、そのように考えております。私からは以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ございますでしょうか。

●D委員 それでは2つほどお伺いします。北海道が決めている5原則があると思うのですが、それは最後まで変わることはないですね。5原則も言っていただきたいのですが。

それと、この7つを途中で6つにするとかそういうこともないわけですね。国だけをやるとか色々論議もあったようですが。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） まず、今委員からご指摘にありました5原則でございます。今、道がというふうにおっしゃったのですが、これにつきましては正確に申しますと、国の成長戦略を議論している未来投資会議という会議のなかで、要するに空港民間委託は民間資金の

活用という観点から未来投資会議の成長戦略の一環として扱われておりますので、そこから提案がございまして、今後道内の7空港一括民間委託というのは例のないやり方なものですから、いわゆる基本的なところをルールとして定めないと今後定まっていけないだろうということもあわせてご提案がございました。

それにつきましては、先日、6月の7日ですけれども、先ほど言った、4管理者が、この図をみていただければわかると思うのですけれども、契約の対象者が下になりますので、この4管理者のトップ、申し上げますと、国交大臣、北海道知事、旭川市長、帯広市長の4者が一堂に会しまして、実際にお会いしまして、この5原則について確認し、合意したということでございます。5原則の内容について今ここでご紹介するというところでよろしいでしょうか。

5原則につきましては、第1原則といたしましては、4管理者が7空港一体という枠組みに変更がないということとを共有する。そして成功に向けて一致団結して責任を共有する。というのが第1原則でございます。

次に、4管理者は、一心同体のプロジェクトチームとして、共同で公平な入札を行い、競争の中で成長力も含めた7空港全体の能力強化に貢献する運営権者を選定する。これが第2原則でございます。

第3原則は、運営権者の提案や要求水準を遵守しない事態が続いた場合には、4管理者全ての契約解除を念頭に対処できる包括的な仕組みをつくる。

次に、黒字の空港による赤字補てんという形ではなく、民間の経営力と統合効果による自治体管理空港の成長を目指す。これが第4原則。

最後の原則といたしまして、原則としては、選ぶ側と選ばれる側の立場の混同につながる管理者による出資は行わない。これが第5原則と。

ざっと紹介いたしましたけれども、この内容につきまして、4管理者のトップで確認し合意させていただいたというのが経緯でございます。これが今後の取組を進める上での基本的な考え方になるということでございます。

ですから、もう一つお聞きになった7空港一体という枠組みを維持していくということについて、当然この原則に則って我々は取組を進めて行くということになっております。

●D委員 最後から2番目ですが、この7つの中で黒字空港というのは多分一つかなと思うのですが、その黒字を7つの空港に配分するということはありませんかということですよ。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 先ほどの図をみていただくとおり、国管理の4つの中では一つの契約ですから、これは一つの固まりですから、この中でいわゆる収支につきましてはこれで一つでございますが、その他の管理者の違う3空港に対しておっしゃるとおり、現状では千歳空港が今は唯一の黒字かなと思いますけれども、今の国の試算によりますと。そういったものを赤字空港の補てんといったものに使う形にはならないというのを原則で確認しております。

●D委員 それじゃあ、4つの空港には千歳の黒字分を一括して扱うということで理解して良いですね。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 一つの要するに契約範囲の中での収支になりますから、

これ自体が事業を一つの形になりますものですから、この中での収支につきましては、ある意味一つのお財布という形になるかと思えます。

●D委員 この4つの中では、私どもの認識では新千歳だけが今黒字かなと思って、他も近いところはあるのかもしれませんが、これを一括してやるということですよ。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） 一つの契約という中ではそういう形になります。ただ、7空港の話になりますと先ほどの原則というのが4者の管理者のなかで共有されているという事でございます。

●D委員 そちらへんが我々一道民にとっては詳しくはわからない部分もあるのですよね。だからそれは最後まで変わらないのかなという感じでのです。わかりました。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 他にございますでしょうか。

●C委員 私からちょっと念押ししてお聞きしたいのですが、一番関心があるのがやはり周辺対策なのです。このことについては空港の民営化で、本体だけでなく周辺対策ということは今まで行政も係ってやってきたということでもありますから、これはこれからも変わらない。と申しますのは、30 桝合意して音の範囲内でもシミュレーションで出ていましたが、ただこれはあくまでもシミュレーションで、30 桝がおきたときに当時のシミュレーションと合致しているかどうかということも非常に大事なものでありまして、見直しだということもあり得るかもわからない。でありますから、こういうことが継続的に行政も関わってやっていく。要するに本体は行政は関わらないというふうになっているのですよ。それで北海道空港が分割していくというようなことですから。

それともう一つは、周辺の事故、これもやはり同じようなことだと思いますから、念押しして今後とも変わりなく我々に対応していただける、ということ併せて聞きたいのですが。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 周辺対策についてでございますが、24 時間運用に関する現在の合意事項につきましては道、苫小牧市、そして地域の皆様とこの3者による合意事項でございます。

よって、民間委託に関わらずこのスキーム、このやり方というのは変えることにはなりませんし、お約束した合意内容についてはしっかり果たしてまいりたいというふうに考えております。

●C委員 合意内容以外でも市民生活というのは行政が関わってやっていくということ。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 引き続き皆様方と空港と地域との共生ということで携わってまいりたいというふうに考えております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 他にご意見ご質問ございますでしょうか。

●B委員 これはみんな民間になった場合に、飛行機ですから、大きな事故で墜落事故とかあったときにはその会社が全部負担するのですか、国は関わらないのか。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） エアラインの部分については空港運営会社ですから、ちょっと切り離して考えていただきますけれど。

空港の下場の滑走路等々のいわゆる安全な運航に携わる安全の確保でありますとか遵守につきましては、この民間委託の契約の中でしっかりと契約事項として入ってきます。その履行につきましてモニタリングと言いますか、今まで通り国の方でそちらについては、しっかりと安全運航

が果たされるということを確認し、必ず担保されるということ民間委託ではお約束するという形になっております。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） よろしいですか。

他にご意見ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、資料 5-2 について北海道から説明お願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） そうしましたら、新千歳空港における最近の動向について、ご説明させていただきます。最後のページ 10 ページの資料の 5-2 をご覧下さい。

最初に、「1 深夜・早朝時間帯における国内定期便」についてでございますが、表に記載のとおり、今年の夏ダイヤにおきましては、昨年と比較して 2 便増となります。1 日最大 16 便の定期便が運航している状況でございます。

この 16 便のうち、表の網掛け部分でございます JAL の新千歳 22:35 着と新千歳 21:55 発の羽田便、それと ANA の新千歳 22:05 着の関西便この 3 路線が、新たに運航されているところでございます。航空会社からは、深夜・早朝便における利用状況は、順調とお伺いしているところでございます。

次に、「2 深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便」でございますが、30 枠への合意以降、これまでに韓国やインドネシアなどのアジア諸国及びグアムへの臨時・チャーター便が運航されております。

特に今年度につきましては、既に 12 便の臨時・チャーター便が運航されており、新千歳＝済州線が公共交通機関のない深夜の 1 時、3 時といった時間帯で運航するなど、多様な活用がされてきているところでございます。

このように、国内・国際の各エアラインにおきまして、徐々に深夜・早朝時間帯のメリットが浸透してきていると受け止めており、国際定期便の就航に向けても、環境が整いつつあるものと認識しております。「新千歳空港における最近の動向について」は以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただ今の説明につきまして、ご意見ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは新千歳空港における最近の動向については終了とさせていただきます。

最後に（6）「その他」でございますが、北海道からは何かございますでしょうか。

それでは本日予定しておりました議題はこれで終了となりますけれども、委員の皆様からその他として何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

●D委員 私は今日は言わないつもりだったのですが、最後の 5、この資料を見てあれですけど、今までの定期エアラインの遅延便です。苦小牧市さんに聞いても今資料持ってなかったあれですから言いますけれども、29 年は出ていませんけれども 27 年と、28 年、27 年が 354 便、28 年が 423 便、その過去は一時よりは少なくなっていますけれども、こういう遅延便対策もきちんとやっていたかかないと駄目かなと思います。去年はウトナイのところにあるボルデメの工事がありましたから、コースを多少外れて飛んでいるのがいたのは仕方ないのかなと思って見ていました。ですけど、今は明らかに違うコースを走っている外国エアラインもあります。だからそうい

うことはやはり基本的に守ってもらうように指導していただきたいなと思います。

30 枠に関しては認めていますけれども、この定期路線の遅延便は決して認めたくてはありませぬし、安全面で言っても決して安全運航ではないのかなと思います。気象の変化とほとんど言われるのですけれど、このデータを見るとそんな理由ばかりではないのですよ。

だから、やはり各エアラインに安全を目標にしてやってもらいたいなと思います。航路直下にいる人間は音だけと不安だけが残るだけですので、よろしくご指導お願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 遅延便でございますが、委員ご指摘のとおり昨年度は 423 便ということで 27 年度の 354 便を 69 便上回ったというところでございます。中でも昨年度につきましては、12 月から 1 月にかけて降雪による大規模な遅延というものが発生したというのが大きな要因かと思いますが、一方で委員ご指摘のように機材故障といったエアライン側に責任のある部分ということも 43 件、10%を占めているという部分で、まだまだ改善の余地はあるというふうに考えております。

こちらにつきましては、道といたしましても、遅延便の解消に向けて航空会社等に申し入れをさせていただいているところでございまして、今後につきましても遅延便が発生しないように様々な場面で要請してまいりたいというふうに考えております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは次に、A 委員。

●A 委員 この場で言うことじゃないのかもしれないのですけれど、財団の方が来ておられますので、ちょっとお聞きしたいのですけれども、南町内会の集会所に財団の方からコピー機とテレビをいただいているのです。それがもう 10 年以上前になると思うのですけれども、コピー機のほうもそろそろメンテナンス期間が切れますということで、トナーなんかの供給が困難になりますという連絡と、テレビについては地デジの前のアナログのテレビなものですから、地デジは見れないのです。

寄贈されたものをまた寄贈願いますというのは厚かましい話なのですけれども、そういうことは可能なのでしょうか。

●苫小牧市（空港政策課長） 今、A 委員がおっしゃっているのが、財団ではなくて空港環境整備協会、新千歳空港の B 駐車場のほうで助成している中身、これがコピー機だとかテレビの寄贈になりますので、これは 8 年に 1 度申請は出来ますので、この後ご相談させていただいて、空港環境整備協会の助成金は毎年申請できますので、その辺の手続きご相談させていただきたいと思っております。

●A 委員 すみません、よろしく願います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 他にその他として何か皆様からございますでしょうか。よろしいですか。

4 閉 会

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、全て終了いたしましたので、以上を持ちまして第 46 回「新千歳空港 24 時間運用に関する苫小牧市地域協議会」を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。